

令和 7 年度 岡崎市美術品等収集委員会会議録

- 1 開催日時
令和 7 年 8 月 7 日（木） 午後 2 時～午後 3 時 30 分
- 2 開催場所
岡崎市美術博物館会議室、収蔵庫前室
- 3 出席委員
神谷浩委員長・石崎尚委員・高橋秀治委員・山田美佐子委員・吉田俊英委員
- 4 説明のため出席した職員
榊原悟美術博物館・地域文化広場・美術館特任館長
美術博物館
大澤一実館長・酒井明日香主査・今泉岳大主査・田中裕紀乃主事・井原凜事務員
地域文化広場
亀井実館長・天野幸枝副館長・谷口結菜会計年度任用職員
美術館
稲垣満春主事
- 5 会議の成立
委員 5 名全員が出席のため、岡崎市美術品等収集委員会設置要綱第 4 条第 2 項の規定により、会議の成立を確認した。
- 6 会議の公開・非公開について
岡崎市情報公開条例第 7 条に規定する非開示情報を取り扱うため、本会議について非公開とした。
- 7 会議の内容
収集候補資料 3 件（購入 1 件、寄附 2 件）について、収蔵庫前室にて資料を実見し、美術博物館職員、地域文化広場職員、美術館職員が説明した。
審議の結果、上記の資料全 3 件について、全会一致で収集が妥当との結論が出た。委員の意見等は以下のとおり。

【購入資料】

調書番号 1－1 「手塚愛子《閉じたり開いたり そして勇氣について (1)》はじめ 2 点」

- ・手塚愛子氏は非常に実力のある作家である。両作品とも非常に面白い作品であり、美しさはもちろんのこと、過去と現在や東と西など様々なコンセプトがある点など、制作過程も含めて素晴らしい作品。1－1①《閉じたり、開いたり そして勇氣について (1)》は、糸を縦と横で織って模様を描くという世界中どこにでもある普遍的な技法を用いて制作された作品である。本作は織った糸を解くところから、開発と進歩だけだった 20 世紀への反省や、西洋ばかり見てい

た日本の立ち位置をもう一度見直そう、というメッセージが込められている。

1-1②《古地図に空路図》は旅をする時の楽しい感情が伝わってくる作品である。都市がない場所から糸が伸びているところも面白く、またチェーンステッチの有機的な線が温かさを感じさせる。美術博物館に所蔵されている作品から派生して制作されたという点で、並べて展示すると鑑賞者にどちらの作品にも興味を持たせることができている。受入に異議なし。

【寄附資料】

調書番号2-1「竹内浩一《サル山》」

- ・小学校時代に描かれた作品という点や、担任の先生からのコメントがあるという点から、ご本人がとても大切にされていた作品だということが窺える。竹内浩一氏は動物を得意としている画家であり、猿というテーマは日本画家となった後にも描いているところからも画家としての原点が見られる良い作品である。子ども美術博物館が収集対象としている10代の作品であり、同館が所蔵するに相応しい。受入に異議なし。

調書番号3-1「鶴見雅夫《月刊たくさんのふしぎ 雑木林の1年(挿絵原画)》」

- ・一昨年に同シリーズの他の3点を受け入れ、今回の資料で「雑木林の1年」がすべて揃うのはとても良い。挿絵自体は雑誌で見ることができるが、原画がすべて揃うということはそれだけで意味がある。受入に異議なし。

以上